

《巻頭言》自動車リサイクル促進センターのサイトでは、様々なデータを調べることができます。例えば、促進センターのwebサイトwww.jarc.or.jp/を開き、「自動車リサイクル法について」、「リサイクル状況について」、「『2011年度運用状況(PDF)』と進むと http://www.jarc.or.jp/automobile/manage/pdf/12_02.pdfに至る。その『(5) 工程別引取(電子マニフェスト) 実施状況』には今年度(平成23年4月～平成24年3月)の引取工程別台数等が記載されていて、先月2月の実績は254,000台でした。一方、「ホーム」の『情報管理業務の実績』、『2010年度 移動報告件数(PDF)』 http://www.jarc.or.jp/info/results/pdf/transfer_ad10_01.pdfと進むと、昨年同月の引き取り台数は225,806台であったことが分かり、その結果、本年2月の引き取り台数は昨年の1.12倍、即ち、昨年比で約一割増加したことが分かります。このサイトを活用することで、自社の入庫台数が全国レベル対比で多かったか少なかったか、といった指標を得ることができます。 小宮山 敬仁 (広報部会、櫛大八商会)

もくじ

- ◇巻頭言 1
- ◇仙台市より感謝状 1
- ◇災害時支援協定(静岡県) 1
- ◇(特別記事)大震災復興 2
- ◇益々必要となるボランティアの力 2
- ◇リサイクル高度化支援事業 2
- ◇スクラップ市場最新情報 3
- ◇編集後記 3



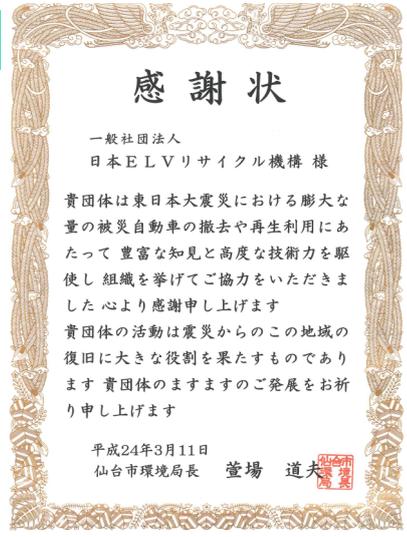
仙台市より感謝状 ～被災車両撤去活動への協力～

去る3月19日、仙台市環境局長 萱場 道夫氏がELV機構本部を訪ね、東日本大震災後、仙台市における被災車両の撤去活動におけるELV機構ならびに会員の働き



に対する感謝状を栗山 義孝ELV機構代表理事に手渡し感謝の言葉が述べられました。特に震災後の極めて早い時期にELV機構を始めとする関係諸団体が連携して仙台市内での撤去作業を進めたため、難航を極めたとはいえ、他の近隣自治体に比べて格段に迅速かつ円滑な撤去作業、更には、その後の適正処理が行われたことに対し、萱場局長を始め現地関係者が如何に感謝しているかが強く語られました。□

《萱場仙台市環境局長と栗山代表》



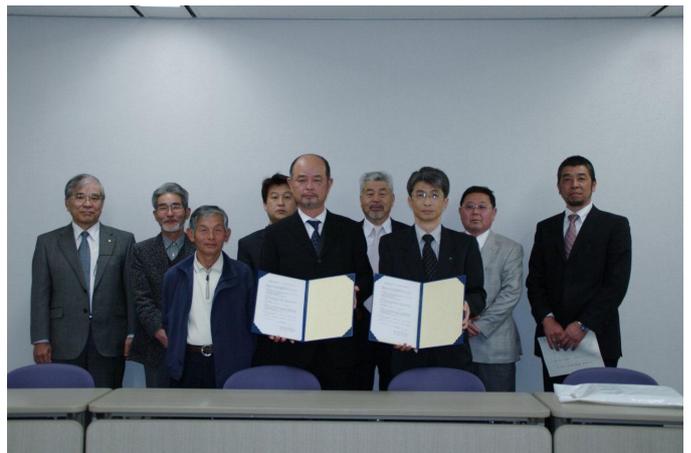
～災害時支援活動協定～

域自治体との災害時支援協定を結ぶ動きが活発化するものと思われま。 (事務局)

去る3月14日、静岡県自動車解体業協同組合(ELV機構社員)と静岡県の間で「災害時支援協定」の調印式が執り行われました。本協定は、東海地震など、将来発生する恐れのある大規模災害を想定し、災害発生時には県災害対策本部の協力要請に基づき、同組合傘下の解体業者が被災車両の撤去、運搬業務を行う等の支援を行うもので、費用並びに支援活動遂行上のリスクは組合側が負担するというものです。

事の発端は、昨年の東日本大震災の際、ELVリサイクル機構の呼びかけで、各地の解体業者が参加した被災車両の撤去支援活動でした。支援活動には、静岡からも、組合の宮下昌之理事長を始め傘下の組合員が参加しましたが、その際、大規模災害のリスクが高い同県において、自治体との支援協定の必要性を強く感じ、その後の協議の結果、今回の協定書調印の運びとなったもの。

今回の調印式に出席した山梨県カーリサイクル協同組合(ELV機構社員)の保坂 勇理事長も災害時支援活動協定の締結を念頭に県との協議を進めているとのこと、今後、各地の加盟機関においても、社会貢献の一環として地



調印式後の記念撮影：
静岡県危機管理部危機管理政策室政策班 班長 塚本 剛氏 (中央右)
静岡県自動車解体業協同組合 理事長 宮下 昌之氏 (中央左)

東日本大震災発生1周年が間近い去る2月中旬、カナダの新聞 ナショナルポスト紙 (National Post)はその電子版に震災直後と11カ月後の写真を多数並べて掲載し、「日本は11ヶ月間で如何に復興したか！」という記事を掲載しました。掲載された写真は実に38組、70枚を上回るもので、記事ともども評価に値するものと思われま

<http://news.nationalpost.com/2012/02/09/see-how-japan-has-rebuilt-in-the-11-months-since-the-earthquake-and-tsunami/> (Ctrlを押しながらカーソルを赤字に宛てて左クリック)

この記事を見た本誌編集委員の皆さんから以下のような感想が伝えられました。

《福島県Aさん》

- 単純にあの瓦礫はどこへ行ったのだろうか。どこへも行っていないんです。あの写真フレームからちょっとだけ外れた所に山積みになっているだけなんです。私のところでもとんでもない量で山積みになっています。
- 放射線量が高い地域では市の処分場で瓦礫を燃やせば燃やすほど放射性物質を撒き散らします。おかげで近隣住民の子供たちの中には、わざわざ学区外の学校に通っている子もたくさんいます。
- マスクを通して聞こえてくるのは、多くの自治体が、安全であるはずの岩手や宮城県の瓦礫すら放射能に汚染されているかのような誤解から処分に協力しないことです。
- 現実には、これら瓦礫は全国他地域の協力なしでは決して処理できるものではなく、自前でやろうとすると気の遠くなるよ

うな歳月を要します。震災後は国民みんなが「絆」を口にしますし、本当に有難いことだとは思いますが、絆の本当の気持ちは、実際に被災した人達の心にしか響かないと思うのはひがみ根性でしょうか。

- とはいえ、この私も震災後は全国あちらこちらの皆さんに物心両面のご支援をいただき感謝しきれないところですが、形としてなんにも恩返しができていない自分が歯がゆいところです。

《北海道Bさん》

- Aさんのやりきれない憤りを痛切に感じます。私の住む自治体も瓦礫の受け入れを拒否しています。国の安全基準が信用できない、という理由です。
- 北海道は独自に安全基準を策定(100ベクレル以下)し、その基準内の瓦礫のみを受け入れる、という方針ですが、放射線汚染に関しては情報が錯綜して良く分からない、というのが本当のところですよ。

《東京都Cさん》

- 地元の方からすれば、「復興が進んだ」とは全く言えないと思います。きっと、『事後処理が済んだ』『後かたづけが終わった』と云ったところでしょうか。
- でも、諸外国から見ると、これはすごいことに映るかもしれません。「ゴミをきちんとする」「きれいに片付ける」ということに関して日本人は非常にすぐれているので外国人から見ると復興が進んだということになるのかもしれない。 □

(編集委員会)

益々必要となるボランティアの力

東日本大震災に見舞われてから一年が経過しました現在、被災地ではいまだ各方面で支援を必要としております。一方、支援活動に参加したいが、条件、日程がうまく合わない人たちが多くいるのも事実。そんな人たちのために、日本全国から、数々のNPOや観光会社がバスによるボランティア・ツアーを用意して一般の参加を募っています。次のURLから「東日本大震災支援全国ネットワーク」にアクセスすると「ボランティア・バス」と云う頁があり、そこには、各地発のボランティア

バスに関する情報が掲載されています。

http://www.jpn-civil.net/news/volunteer_bus/

例えば、陸前高田の災害ボランティアセンターでは、火曜日を除く毎日午前8時20分までに訪れた人には必ず何かの作業を割り当ててくれます。筆者の友人が先般参加したところ、その日(金)の参加者は約400名に上ったとのことでした。ちなみに、その日の作業は、重機で大きな瓦礫が取り除かれた後の田畑で小さな岩石や瓦礫を取り除く作業であったとのこと。 □ (事務局)

平成23年度環境省支援事業

《自動車リサイクル高度化支援事業》

昨年10月に公募があった「平成23年度自動車リサイクル連携高度化等支援事業」に応募して採用された6事業の成果に関する評価委員会が去る3月21日開催されました。実施された事業名と申請者名()は次の通りです：

- 1) 自動車リサイクル連携高度化支援事業 (4件)
 - ①使用済自動車由来小型モーター屑からの銅資源回収 (豊田通商株式会社)
 - ②小規模解体業者の連携によるレアメタルリサイクル～量から質への回収スキーム高度化～ (当機構)
 - ③自動車バンパー材料リサイクルのための選別技術実証試験 (株式会社マテック)
 - ④リユース部品の在庫「見える化」システムの構築とCO₂削減効果情報提供プラットフォームを活用したインセンティブ付与に関する実証 (株式会社早稲田環境研究所)
- 2) 先進的金属リサイクル技術開発等事業 (2件)

⑤レアメタル等希少金属を含む複合金属素材の流動応力分離装置の研究開発とネオジウムリニアドライブ高度分別回収装置の開発 (大越工業株式会社)

⑥廃自動車スクラップ付随合金元素の高度有効利用に向けたマテリアルフロー改正並びに元素分配傾向基礎調査 (東北大学)

今回の評価会には、産構審自動車リサイクル小委員会委員長の永田勝也教授(早稲田大学)を座長に、東北大学、北海道大学や日本環境衛生センター等大学、研究機関の関係者が委員として出席した他環境省関係者が出席しました。

今回の委員会における評価結果は、今後各事業毎に作成される報告書に反映され、次年度のしかるべき時期に公表されるものと思われま

す。ELV機構では、実施した実証研究の成果がまとまり次第会員に向けて報告すると共に、他の事業成果についてもwebサイトを活用するなどして会員に対して情報提供して参ります。 (事務局)

～3月第5週（28日）の鉄スクラップ動向～

東京製鉄が27日から値上げ 年初来高値に回復

東京製鉄は3月27日、高松工場を除く各工場の鉄スクラップ購入価格をそれぞれ1トあたり500円値上げした。3月22日に続き2回目の値上げ改定。高松工場を除く各工場の購入価格は、3月2日につけた年初来の高値水準に回復した。

同社の直近最後の値下げは3月10日で、市中相場はこの時点からしばらく様子見横ばいの状態が続いたが、現在の基調は強含みへと変化している。

国内市場は年度末環境にあるものの、先高見通しが強く、足元の荷動きが冴えない状況にある。このため東京製鉄は購入価格を値上げして入荷を促したい考えだ。また、輸出市場で、韓国の電炉が今週に入って、H2の輸入価格を1トあたりFOB34,000円に値上げしてきたことも同社の値上げの要因の一つだ。

ただ、国内市場では、電力不足に陥る7～8月に電炉筋が減産を予定しているため、前倒し生産を含めて4～6月に増産が見込まれていることから、鉄スクラップの先高見通しが強い。このため市中業者筋は、3月中の出荷は必要な分だけにとどめ、4月の値上がり後に出荷したいといった意向を強く持っている。国内相場の上伸基調は続きそう

《3月28日の国内スクラップ炉前実勢価格》

		H2		気配
関東	北関東	32,500	～ 34,000	様子見
	南関東	32,500	～ 34,000	様子見
	名古屋	32,500	～ 34,000	様子見
関西	大阪	33,000	～ 34,500	強含み
	姫路	32,500	～ 33,000	様子見

だ。

関東地区 需給双方とも様子見姿勢、先高見通し強く

関東地区の鉄スクラップ相場は、27日から東京製鉄など製鋼5社が購入価格を値上げしたほかは目立った動きがなく、様子見の相場推移を続けている。需給双方とも様子見の姿勢で、4月に入る公算だ。電炉筋は、一部大手電炉が炉休、荷止を実施していることもあり、引き合いを強める動きは見せていない。関東地区のH2炉前実勢価格は

32,500～33,500円中心、高値34,000円見当。現在のH2浜値は32,500～33,000円中心。

東海地区 27日から値上げ広がる、地区電炉筋の500～1,000円上げが一巡

名古屋地区では、半数のメーカーが27日から先行値上げに動いたこともあり、地区電炉筋の500～1,000円上げが一巡した。業者筋では、部分的に出荷への動きも見られるが、多くは様子見気配で月替りへ向うものと見られており、荷動きはなお低調だ。H2の湾岸港価格はFAS31,500～32,500円ところで、32,000円以下の安値は姿を消しつつある。東海地区のH2炉前実勢価格は32,500～33,500円中心、高値34,000円。

関西地区 大阪地区の市況は依然として強含みの展開

大阪地区の市況は依然として強含みだ。ただ、年度末環境とあって、市中スクラップの荷動きは割合スムーズなものとなっており、先行値上げへ動いていた高値電炉を中心に好調な入荷が続いている。大阪地区のH2炉前実勢価格は33,000～34,000円、一部高値34,500円。姫路地区では、山陽特殊製鋼が28日入荷分からの鉄スクラップ購入価格を一律1,500円値上げした。同地区のH2炉前実勢価格は32,500～33,000円。□

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、3月28日時点のもの)

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



編集後記

◇本誌P2に自動車リサイクル高度化支援事業について記載したが、今回のプロジェクトの成果の一つともいえるべき小冊子(右)を作成して会員各社にお届けすると共に、webサイトに全文を掲載した。(下記URL)
◇廃車から採算ベースで希少金属類を回収する、いわゆる『都市鉱山』の実現が可能なのかどうか、今回の実証実験を手始めに、今後の長い研究、実証が必要となろう。また、同時に、解体業者が結束し、一丸となって、全員一致の取り組みが出来るかどうか、まさに我々に与えられた挑戦である。



◇3月と云うことで、大震災からの復興に関する記事が多くなったが決してこれで十分とは思っていない。大震災で直接の被害を負った人達にとっては忘れられない出来事としていつまでも残ろうが、地理的に離れた人達の記憶は次第に風化してしまう。明日は我が身と思えば決して忘れることはできないはずだが・・・被災地から一番遠いのは『永田町』だった等といった冗談はおかしくもない。◇今回は、一寸文字を詰め過ぎたため読者にはさぞかし読み辛かろうと反省しています。(編集子)

<http://www.elv.or.jp/skins/201012/img/20120327a.pdf>